

### 木村選手が3戦連続2位、シリーズ3位で今季を締めくくる

B-Max Racing Team (SFL チーム代表 組田龍司) は、9月24～25日、岡山国際サーキットで行われた全日本スーパーフォーミュラ・ライセンス選手権第16～18戦に参戦し、木村選手が3戦すべてで2位を得て、ドライバーズランキング3位で2022シーズンを締めくくりました。

菅波選手は第17戦で表彰台まであと一步の4位、急きょ参戦が決まったロベルト・メリ選手は、思うような結果は得られませんでした。その参戦は大きな話題となりました。

マスタークラスは、すでにチャンピオンを決めている今田選手と DRAGON 選手が、今回も手抜きなしのバトルを繰り広げ、結果は1勝ずつと今季を象徴する結果でした。

これで今シーズンの SF ライツ選手権は全日程を終了。目標としていたチャンピオン獲得はなりませんでしたが、Honda の育成プログラムを担うなど、チームとして新たな一步を踏み出したシーズンでした。

#### ■第16,17戦予選 (9月24日(土) 午前9時05分～30分間)

1回目のアタックでは菅波選手が1分21秒688をマークしてトップ。木村選手も僅差で3位と上々の滑り出しを見せました。一旦全車がピットに戻り残り10分から始まった2度目のアタックは、木村選手が1分21秒138でトップに躍り出ますが、その直後に太田選手が1000分の1秒差で逆転。木村選手も再逆転を試みますが届かず。ただし、セカンドタイムで決まる第17戦は木村選手が制しました。

菅波選手は、タイムアップはしたもののベストタイム5位、セカンドタイム4位と伸び悩みました。メリ選手は懸命にアタックするも、ドライでの走行時間が十分ではないなかで上位に食い込むことは難しく、8位と9位でした。



	ドライバー	予選ベストタイム (順位)	予選セカンドベスト (順位)	Point (累計)
1号車	木村偉織	1分21秒138 (2/11)	1分21秒229 (1/11)	1 (63)
50号車	菅波冬悟	1分21秒401 (5/11)	1分21秒517 (4/11)	0 (20)
98号車	R.メリ	1分22秒079 (8/11)	1分22秒321 (9/11)	0 (0)

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：22度、路面温度：29度

### ■第16戦決勝 (9月24日 (土) 午後1時20分～25周)

好天に恵まれた決勝日。フロントロー2番手スタートの木村選手は1コーナーまでにポールシッターの太田選手に並びかけますが、抜くまでには至りませんでした。予選4位の古谷選手がエンジン交換で5グリッド降格になったため、菅波選手、メリ選手は、それぞれグリッド位置を1つ上げてのスタートでしたが、2人とも順位を落として5位、9位でコントロールラインに戻ってきました。

抜きどころの少ないコースで、レースはこのまま膠着状態に入り、木村選手は8周目までにトップに1.7秒差をつけられてしまいます。しかし、諦めることなく追い上げ、18周目には0.8秒まで詰めますが、最後までパッシングのチャンスは訪れず2位でフィニッシュしました。菅波選手は単独走行となり5位、メリ選手は先行された元嶋選手を最後まで追い続け9位でチェッカーを受けました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
1号車	木村偉織	2位	1分23秒661 (3/11)	7 (70)
50号車	菅波冬悟	5位	1分23秒965 (5/11)	2 (22)
98号車	R.メリ	9位	1分24秒295 (8/11)	0 (0)

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：30度、路面温度：46度

### ■第 17 戦決勝 (9 月 25 日 (日) 午前 9 時 20 分～18 周)

ポールポジションスタートの木村選手は、スタートで出遅れ 3 位にまで後退しますが、即座に 2 位まで順位を回復すると、トップの小高選手を追います。しかし、ペースはほぼ同じで抜くチャンスは訪れないまま後半へ。終盤ファステストを叩き出して追走しますが届かず、悔しい 2 位となりました。

菅波選手は、4 位のポジションをキープしてレースを進め、徐々に前後の間隔が開いて単独走行となったままフィニッシュ。メリ選手は 1 周目に 7 位まで順位を上げますが、アクシデントで入ったセーフティカーラン中に追い抜きをしたとして、ドライブスルーペナルティ。13 周目にピットに入ってそのままレースを終えました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
1 号車	木村偉織	2 位	1 分 22 秒 281 (1/11)	7+1 (78)
50 号車	菅波冬悟	4 位	1 分 22 秒 868 (5/11)	3 (25)
98 号車	R.メリ	DNF	1 分 23 秒 153 (7/11)	0 (0)

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：23 度、路面温度：29 度

### ■第 18 戦決勝 (9 月 25 日 (日) 午後 2 時 05 分～18 周)

2 番グリッドからスタートの木村選手は、好スタートから 1 周目にポールスタートの太田選手に何度か並びかけますが、前に出ることは叶わず、第 16 戦と同様の展開になります。パッシングの非常に難しいコースでは無理もできないため、一旦ファステスト狙いに切り替えた後に、再びトップを追走しますが、結局そのままフィニッシュを迎えました。

5 番手スタートの菅波選手はスムーズに加速しないクルマと悪戦苦闘しながら 8 位、メリ選手は 9 位でレースを終えました。





	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計/有効)
1号車	木村偉織	2位	1分23秒492 (1/11)	7+1 (86/85)
50号車	菅波冬悟	8位	1分24秒348 (8/11)	0 (25/25)
98号車	R.メリ	9位	1分24秒337 (7/11)	0 (0/0)

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：27度、路面温度：43度

※有効ポイントは開催レース数の80% (14戦) の合計

### ■チーム監督 高木真一コメント

練習走行はウェットだったり、ドライだったりの難しいコンディションでしたが、そのなかで木村選手、菅波選手ともに速さを見せてくれました。課題は、その速さを予選に繋げて、爆発的なタイムを出せるかというところですね。予選の1回目のアタックは菅波選手が好調で本人も自信を持っていたようですが、2回目は上手くいかず、最後は木村選手が僅か1000分の1秒差というトップと同等のタイムを出しました。

ただ、そのほんの僅かの差がこの週末の3連続2位という結果に繋がったとも言えますので、ミスのない完璧なアタックができるよう一皮むけてほしいと思います。でも、決勝ではずっとファステストに近いタイムを刻み続けられるようになりましたし、この1年はすごく身になったシーズンだったと思います。

メリ選手は、ウェットでのコントロールは良かったのですが、短い走行時間のなかで、ドライコンディションの繊細なタイムを削り取る作業は難しかったのだらうと思います。

### ■チーフエンジニア 宮田雅史コメント

少しずつ改善はされてきていますが、今回も練習走行の速さを予選に生かせないというパターンでした。特に菅波選手がそうでしたが、技術的な問題はないはずですし、原因はこれだというものがないだけに解決するのは難しいですね。



## Press Release

2022.9.30

**B-Max Racing Team**

B-MAX ENGINEERING 株式会社 MS 事業部

252-1107 神奈川県綾瀬市深谷中 8-8-2

TEL 0467-39-5960 / FAX 0467-39-5940

<http://www.b-maxracing.co.jp/>

でも、シーズン当初と比較すると二人とも大きく成長したと思います。残念なのはそれが結果として表れていないことですが、体力面も大きく改善されましたし、クルマを乗りこなすということに関しても格段に良くなりました。あとは一発の速さですね。

### ■1号車ドライバー 木村偉織選手コメント

予選で1000分の1秒負けたということがすべてだったように思います。あそこでポールが取れていれば、勝つチャンスは間違いなく広がっていました。自分としては良いアタックだったと感じていますし、そこに至るまでの取り組みにおいてもやり残したことはなかったように思います。

ただ、結果を見て思うのは、120%まで引き出さないとダメだということです。もてぎでは100%でポールが取れて、今回も100%の走りはできたと思いますが、それでは足りないということだと思います。そういう世界だと改めて感じました。

今シーズンを振り返ると、デビューイヤーとして反省点も多い1年でしたが、ポールポジションも優勝もファステストも複数回取ることができ、ポジティブな面も多く、成長できた1年でした。

### ■50号車ドライバー 菅波冬悟選手コメント

練習走行は不安定なコンディションでしたが、金曜日の午後にドライセッティングの方向性が決まり、予選で戦えるレベルまで上げることができました。自信を持って臨んだ予選は、1回目のアタックでは余力を残しながらもトップタイムで、そこまでは良い感じでした。でも、2回目のアタックでは位置取りをするなかで上手くタイヤを温められずに、ポール争いに絡むことはできませんでした。感触が良かっただけに悔いが残ります。

決勝はタイヤが新品でグリップがあるうちは良いのですが、ピークを過ぎた後や、混戦でダウンフォースが満足に得られないときのタイムの落ち込みが顕著でした。最終大会でしたのでもちろん良い結果を残したいと思っていましたが、それができずに残念です。

### ■98号車ドライバー ロベルト・メリ選手コメント

この週末は思い描いていた結果は得られませんでした。チームやメカニックは一生懸命やってくれましたが、ずっとグリップ不足に悩まされ、さまざまなトライをしても改善されることはありませんでした。原因はよく分かりません。走行時間が少なかったことも多少は影響しているかもしれませんが、15歳でフォーミュラカーに乗ってから多くの経験を積んできているので、それは問題ではありません。これほど苦しんだレースウィークは自身のレースキャリアで初めてでした。

### マスタークラス

#### ■第 16,17 戦予選

1 回目のアタックでは、DRAGON 選手 (1 分 23 秒 468) にやや水を開けられた今田選手 (1 分 24 秒 159) ですが、2 回目のアタックでは、タイムアップを果たせずに苦しむ DRAGON 選手に対し、今田選手は徐々にタイムを詰めていき、最後のラップで 1 分 23 秒 430 をマークし見事逆転に成功。クラスポールポジションを獲得しました。セカンドタイムでは DRAGON 選手が上回りました。

	ドライバー	予選ベストタイム (順位)	予選セカンドベスト (順位)	Point (累計)
4 号車	今田信宏	1 分 23 秒 430 (M1)	1 分 23 秒 764 (M2)	1 (141)
30 号車	DRAGON	1 分 23 秒 468 (M2)	1 分 23 秒 581 (M1)	1 (117)

#### ■第 16 戦決勝

接近戦を見せる二人は、1 周目のダブルヘアピンで DRAGON 選手が前に出ますが、今田選手も引かずに並走。トップの座を奪い返した今田選手は、DRAGON 選手を引き離そうと必死でプッシュしますが、DRAGON 選手は 0.5 秒差で追走を続けプレッシャーをかけ続けました。終盤、両者の間隔がやや開いたところでチェッカーとなり、この日、誕生日だった今田選手がバースデーウィンとなる 10 勝目を飾りました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
4 号車	今田信宏	M1 位 (総合 10 位)	1 分 25 秒 396 (M2)	10 (151)
30 号車	DRAGON	M2 位 (総合 11 位)	1 分 25 秒 298 (M1)	7+1 (125)



### ■第 17 戦決勝

スタートから闘争心むき出しの今田選手と DRAGON 選手ですが、その二人の熱い思いが接触という悪い形になってしまいました。非常に抜きづらいコースということもあり、1 周目のヘアピンに並走して進入した二人は、どちらも引くことなく接触。今田選手はコースオフしてグラベルにはまってしまい、DRAGON 選手は足回りを痛めてピットでリタイアとなってしまいました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
4 号車	今田信宏	DNF	-----	0 (151)
30 号車	DRAGON	DNF	-----	0 (125)

### ■第 18 戦決勝

総合の争い以上に熱い二人のバトルは、このレースでも変わることなく、スタートで先行した今田選手が「少し気を抜いてしまった」と 2 周目のヘアピンでインを開けたところに、DRAGON 選手が飛び込み、ここで勝負あり。クラストップの座を得た DRAGON 選手はチェッカーまで今田選手に付け入る隙を与えることなく走り切り、今季 6 勝目を飾りました。

これで、このレースウィークの二人の勝敗は、1 勝 1 敗 1 分 (リタイア)、ファステストも 1 回ずつとまったくの五分で、今シーズンを象徴する結果となりました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計/有効)
4号車	今田信宏	M2位 (総合11位)	1分24秒949 (M1)	7+1 (159/143)
30号車	DRAGON	M1位 (総合10位)	1分25秒154 (M2)	10 (135/126)

※有効ポイントは開催レース数の80% (14戦) の合計

### ■4号車ドライバー 今田信宏選手コメント

最後のレースでインを空けたことが悔やまれますが、この週末の DRAGON 選手との勝負は、1勝1敗1分でした。今シーズンを振り返ると、楽しく走って成長を実感することができ、充実した1年だったと思います。それも DRAGON 選手との競り合いがあったからで、バトルさせてもらえて有り難かったです。来年はぜひマスタークラスに新たな仲間が増えることを願っています。

### ■30号車ドライバー DRAGON 選手コメント

今回も今田選手といろいろありましたが、セッティングに関しては、関口選手がアドバイザーとして帯同してくれたので非常にスムーズに進みました。

このコースは抜きにくく予選で8割方が決まりますので、予選をもう少し上手く走ってダブルポールを取りたかったという思いはあります。でも、今田選手とポールを分け合い、1勝ずつ、ファステストも1つずつという、引き分けでした。2レース目では当たってしまったりしてお互いに反省点もありますが、それらを踏まえて来年に繋がれば良いと思います。





# Press Release

2022.9.30

## B-Max Racing Team

B-MAX ENGINEERING 株式会社 MS 事業部

252-1107 神奈川県綾瀬市深谷中 8-8-2

TEL 0467-39-5960 / FAX 0467-39-5940

<http://www.b-maxracing.co.jp/>

